

## 甲奴小学校不祥事根絶のための行動計画

使命：私たちは、子ども達を守り育てます。

公正：私たちは、不祥事を許しません。

遵法：私たちは、法令等を遵守します。

公開：私たちは、地域に開かれ信頼される学校にします。

三次市立甲奴小学校

作成責任者 校長 田中 弘記

区分	本校の課題	行動目標	取組内容	点検方法・時期
教職員の規範意識の確立	<p>○規範意識は高まっているが、「いざ」という時の行動ができるか一人一人今一度考える必要がある。</p> <p>○本校では不祥事は生起しないだろうという安心感がどこことなくあり、お互い声かけが不十分である。</p>	<p>○昨年度に増して、服務研修の方法や内容、時期等を精査し、研修効果があがるようにする。</p> <p>○意識して一日数人に声をかけ合う風土を作る。</p>	<p>○全ての教職員を対象にしたアンケート調査を行い、方法や内容を改善する。</p> <p>○服務に関する研修を毎月1回以上行い、必要に応じ自己チェックをおこなう。</p> <p>○不祥事防止委員会で取組を協議する。</p>	<p>○服務研修アンケート調査を行う。</p> <p>○自己チェック表の作成と月1回の服務研修。</p>
学校組織としての不祥事防止体制の確立	<p>○ともすれば教職員個人の技量に依存しがちである。</p> <p>○風通しの良い組織をつくり取組を進めることが大切なのは分かっているが管理職が牽引している。</p>	<p>○教職員同士のコミュニケーションをさらに促進し、組織で仕事を進めるようにする。</p> <p>○意識して教職員同士、コミュニケーションを図る。</p>	<p>○特定の教職員に負担がかからないように集団サポート体制をつくる。</p> <p>○教職員同士がコミュニケーションを図る場を企画する。</p>	<p>○月に1回、不祥事防止委員会で情報交換を行い、状況を把握する。</p>
相談体制の充実	<p>○「体罰、セクシュアル・パワーハラスメント、いじめ、障害等を理由とする差別相談窓口」の認知度がまだ低い。</p> <p>○相談体制は整っているが、相談が切り出せる雰囲気が弱い。</p>	<p>○「体罰、セクシュアル・パワーハラスメント、いじめ、障害などを理由とする相談窓口」を掲示・周知し、相談しやすい体制をつくる。</p>	<p>○PTA総会や学校だよりで周知徹底する。全部屋に相談窓口ポスターを掲示する。</p> <p>○保護者から体罰・セクハラ・いじめについての情報を集める手立てをする。</p> <p>○学期末に保護者・教職員対象アンケートをする。</p> <p>○定期的に相談窓口担当者と教職員が話し合う。</p>	<p>○保護者の相談や聴取の記録を作成する。</p> <p>○アンケート集計結果を学校だよりで知らせる。</p>